

ねん がつ みっか
2021年7月3日
ねんかんだい しゅじつ
年間第14主日

きくち いさおだい しきょう
菊地功大司教 メッセージ

よわ つよ
「わたしは弱いときにこそ強いからです」

きょうかい てがみ にんげん おも えが りそ う こと ぎやくせつ なか
コリントの教会の手紙でパウロは、人間の思い描く理想とは異なる、いわば逆説の中
かみ しんり そんざい こと してき にんげん じょうしき ゆうせん かみ しんり
に、神の真理は存在している事を指摘します。人間の常識が優先されるとき、神の真理
はたらき さまた おも あ き にんげん ちから げんかい よわ
はその働きを妨げられる。しかしその思い上がりに気づき、人間の力の限界、つまり弱
みと はじ はたらき はば ちから
さを認めたときに初めて、それまで働きを阻んできた「キリストの力がわたしのうち
やど ほんらい ちから はつき してき おも あ おも こ
に宿」り、その本来の力を発揮するのだと、パウロは指摘します。思い上がり、思い込
み、常識、自己保身、虚栄、などなど、神の力が働くことを妨げるわたしたちの利己的
じょうしき じこほしん きよえい かみ ちから はたらき さまた り こてき
な心の動きは、いくつでも見いだすことができます。

ふくいん する ものがたり じじつ めいかく しめ め まえ かみ じしん
マルコ福音に記されたイエスの物語は、この事実を明確に示します。目の前に神ご自身
ひとびと ところ め にんげん じょうしき と かみ はたらき さまた
がいるにもかかわらず、人々の心の目は、人間の常識によって閉ざされ、神の働きを妨
げます。閉ざされたこの心の目は、自分たちが見たいものしか見ようとしません。人間の思
と ところ め じぶん み み にんげん おも
い上がりは、簡単に心の目を閉ざし、自分たちが正しいと思い込んで選択した行動が、
あ かんたん ところ め と じぶん ただ おも こ せんたく こうどう
実際には神に逆らう結果を招いていることにさえ気がつかせません。

でむ きょうかい よ きょうこう ふくいん よろこ なか
「出向いていく教会」であれと呼びかけられる教皇フランシスコは、「福音の喜び」の中
せんぎょう ちゅうしん しぼく あんい しぼくきじゅん す
で、「宣教を中心とした司牧では、『いつもこうしてきた』という安易な司牧基準を捨
てなければなりません(33)」と呼びかけます。

うえ きょうこう でむ じこ あ きず お よご きょうかい
その上で教皇は、「わたしは、出向いていったことで事故に遭い、傷を負い、汚れた教会
ほう す と じぶん あんぜん ちたい きらく や きょうかい
の方が好きです。閉じこもり、自分の安全地帯にしがみつくと気楽さゆえに病んだ教会よ
りも好きです。中心であろうとばかりしている教会、強迫観念や手順に縛られ、閉
す ちゅうしん きょうかい きょうはくかんねん てじゅん しぼ と
じたまま死んでしまう教会は望みません。(49)」と指摘されます。

ねんあき せかいだいひょう しきょうかいぎ かいさい きょうこう
2023年秋に、シノドス世界代表司教会議が開催されます。教皇はそのテーマを、「と

もに歩む教会のため—交わり・参加・そして宣教」と定められました。教皇は、教会の「シノドス性」、すなわち、神の民として「ともに歩む」姿勢をテーマとし、それを具体的に生きる教会であるための道を見いだそうとされています。神の民のすべてが、その識別へ参加するように招かれています。

今年の10月から、世界各地の教区において、草の根の声を吸い上げるプロセスが始まります。そのための前提となる質問書は準備が進んでいます。先日のシノドス事務局とのオンライン会議によれば、準備されている質問書は、これまでのような重厚な文書ではなく、短い、理解しやすいものとのこと。どのような方法になるかはまだ定まっていませんが、東京教区でも、また日本の教会全体でも、この秋以降、できる限り多くの方の声をうかがい、バチカンに届けたいと思います。

また東京教区では、同じように、宣教司牧方針を定めるために、多くの方からの意見聴取を時間をかけて行い、昨年末に、今後10年ほどの方向性を記した文書をお示ししたところです。残念ながら、感染症の状況の中で教会活動の自粛が続き、具体的な動きを始めようとするところで滞っていますが、徐々に方針の三つの柱である「宣教する共同体」、「交わりの共同体」、「すべてのいのちを大切にする共同体」を実現する道を歩みはじめたいと思います。

これまでこうしてきたからとか、こうして成功したとか、さまざまな人間の思いにがんじがらめになるとき、新しい挑戦へと踏み出すことを躊躇してしまい、結局、神の力が働くのを妨げることを繰り返しています。勇気を持って、傷つくのを恐れず、出向いていく教会として、福音に生き、福音をあかしして参りましょう。弱さを認めるとき、初めて神の力が働きます。